

国際関係概論 15

林 光

2007年10月11日 木曜日

0 事務連絡

・「ゲームやっとわかった」「ゲームの解き方忘れてしまってる！」等のコメントがありました。

・選ばなかった問題のレポート提出も歓迎します。

・成績評価の方法は未定だが、大切なのは授業内容を理解すること。一定水準に達しているか否かが合否の分かれ目になる。¹たとえ普段出席していなくとも、この水準を満たしてさえいれば「優」を出す。他方、普段よく出席していながら実力が発揮できなかった人がいるが、今回のレポートはそういう人に挽回の機会を与えるはず。それ以外の、普段あまり出席もせず勉強もしなかった人は、単位取得は厳しい。どうしても単位が欲しいならば相応の努力をすること。

1 前々回の復習：覇権安定論

「国際経済秩序の安定には覇権国の存在が不可欠」

例：19c の英，20c の米

「覇権国の衰退 国際経済秩序の不安定化」

20c 初の大恐慌期の混乱 = ブロック経済化

旧覇権国の英 × 能力，新覇権国の米 × 意思

安定した国際経済秩序 = 国際公共財

これを覇権国が一方的に負担・供給

公共財の条件 1：非競争性²

公共財の条件 2：非排除性³

¹出席カードの提出に期待を抱かないこと。基本的には評価には無関係。アリバイ作り？のつもりなのか、終了間際に短時間だけ来る人がいるが、授業内容を理解するつもりがないのなら時間の無駄。出席カードは基本的には授業へのコメントや要望を得るためのもの。

²人数にかかわらず全員が同時に同じ量を消費できる

³特定（費用を払わない等）の者にその財の利用・消費を禁じることが不可能

2 前回の復習：レジーム論

2.1 レジーム

レジーム：国家間で成立している原理・原則，それらを規定する規則・規範の総体

例：ブレトンウッズ体制

たとえ設立時には覇権国の利害を反映していてもいったん構築されると独り歩きを始める
= 覇権国の意図を超えた自律的な拘束力
(覇権国すら拘束すること)

2.2 精緻化

2.2.1 繰り返し囚人のディレンマ

表 1: PD

	C	D
C	2,2	0,3
D	3,0	1,1

例：C は関税率維持，D は関税率引き上げ

ナッシュ均衡は (D,D)

でもレジームは (C,C) をもたらすとされている
ではどうやって？

繰り返し囚人のディレンマ！

ゲームが続く可能性 協力が生まれやすくなる
将来の仕返しを恐れて裏切りを控える

他にもレジームの効能

- ・取引費用（何が D にあたるかの定義）
- ・情報提供（誰が D をとったか監視）

2.2.2 しっぺ返し

コンピュータープログラムのトーナメント

by R. Axelrod

しっぺ返し (Tit for Tat) 戦略の有効性

「初回は C, 次回以降は相手の手を模倣」

つきあい方の科学

1. Don't be envious
2. Don't be the first to defect
3. Reciprocate both cooperation and defection
4. Don't be too clever

2.3 批判

囚人のディレンマより男女の争いの方が相応しい？

表 2: Battle of the Sexes

	A	B
A	2,1	0,0
B	0,0	1,2

国家は絶対利得ではなく相対利得を追求？

3 制度の発生 3：世界文化論

3.1 構成主義

理念・規範 (cf. 国益) 国家の行動⁴

社会構造 主体⁵

例：自由貿易レジームにも覇権国の個性が反映

例：反アパルトヘイト政策への転換

3.2 認識共同体論

科学的知識をもった専門家のネットワークが、不確定性に直面している国家の意思決定に影響

例：環境汚染への対応、自由貿易の推進？

⁴物質 < 観念の例：英国の 500 発の核兵器 北朝鮮の 5 発の核兵器

⁵とりわけ の方向性を重視 . cf. 経済学 = bottom-up 社会学 = top-down

3.3 世界文化論

世界の不可思議

- ・ 6-3-3 制の大衆教育
- ・ 陸海空軍 (内陸国でも！)
- ・ 多国間制度への一律参加

なぜ多くの国々が同じように行動？

「文化」 = 台本・青写真がコピーされる

Isomorphism (同型化) & Decoupling (乖離)

: 青写真と実情との乖離が発生

× ある文化が広まったのは効率性ゆえ